幼児のテレビ視聴時間の減少とその背景

～幼児生活時間調査・2013の結果から～

世論調査部　中野佐知子

世論調査部で毎年実施している「幼児視聴率調査」で，幼児のテレビ視聴時間が長期的に減少してきたことを受けて，2013年3月に10年ぶりに「幼児生活時間調査」を実施し，幼児の生活時間やメディア利用の変化をとらえた。

今回の生活時間調査においても，テレビの行為者率，全員平均時間は，10年前の調査結果（2003年3月調査）から月曜（平日），日曜（休日）とも減少した。特に月曜は，行為者率が10%，全員平均時間が30分以上減少しており，今回の結果の中で最も変化量の大きい行動となった。その背景として，高年齢，フルタイム勤務の保護者（主に母親）が増加し，幼児に占める保育園児の割合が増加したことが大きい。保育園児の月曜の在園時間も10年前より増加し，9時間以上と長時間化している。その結果，家でテレビを見たり遊んだりする自由時間が大幅に減少した。さらに幼児全体で“早寝早起き化”が進んでおり，夜間のテレビ視聴を早めに切り上げる幼児が増えた。

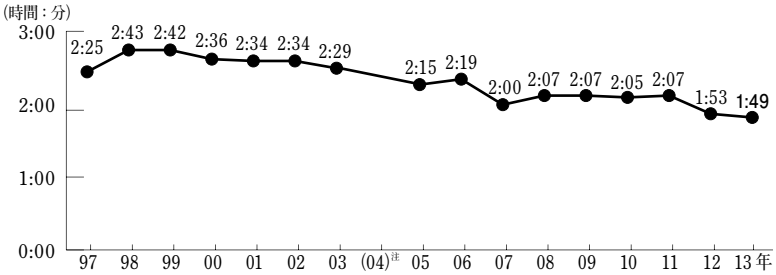
一方，録画番組・ビデオの行為者率，全員平均時間は10年前と比べ，月曜は変わらないが日曜で増加した。時刻別にみると，月曜，日曜とも夕方から夜間にかけての利用が増えており，夜間のテレビ視聴の一部がビデオ視聴に取って替わった可能性がある。このほか，幼児と合わせて調査した保護者のテレビ視聴時間も大幅に減少しており，幼児のテレビの見方に影響を与えていると考えられる。

はじめに

世論調査部で毎年実施している「幼児視聴率調査」の結果によると，幼児（2～6歳）の1日のテレビ視聴時間（週平均）は，2012年に減少し，1990年の調査開始以来，初めて2時間を切った。2013年も1時間49分と，視聴時間の回復はみられていない（**図1**）[1]。この幼児の視聴時間が減少した背景について，「幼児視聴率調査」では，ビデオの再生時間が増加傾向にあること（2011年40分→2012年46分→2013年52分），また，子どもの視聴時間と関係が深い母親において，テレビを短時間（2時間未満）しか見ない人が増加し（2011年44%→2012年51%→2013年56%），幼児のテレビの見方にも影響を及ぼしている可能性があること，などを挙げている[2]。しかし，幼児のテレビ視聴時間の減少は2012年に急に始まったものではなく，緩やかではあるが長期的に減少してきた。おそらく，幼児の生活全般に何らかの中長期的な変化が生じ，幼児のテレビ視聴時間の減少に影響しているのではないか。こうした考えのもと，幼児の基本的な生活行動やメディア利用を時間の面から把握する「幼児生活時間調査」を企画した。

幼児を対象とした生活時間調査は，NHKでは過去に2度，実施している。まず1979年に，幼児に対するテレビの影響を考えるための基本資料とするために「幼児の生活とテレビ」調査を実施した[3]。2003年にはこの趣旨を引き継ぎつつ，現行の国民生活時間調査と同方式で「幼児生活時間調査」を実施，テレビのみならずビデオやテレビゲームなど多様なメディアを使う幼児の生活実態を明らかにした[4]。今回は2003

図1　幼児視聴率調査　幼児（2～6歳）テレビ視聴時間の推移（1日，週平均）



注）2004年は「幼児視聴率調査」を実施していない

年調査からちょうど10年後の調査となった。この10年で幼児をめぐる家庭や社会，およびメディア環境は，大きく変化した。そこで今回の調査では，この10年の生活時間の変化の把握を最も重要な目的と考え，2003年調査の調査票を極力変更せずに実施した。

調査自体は，幼児の生活行動全般をとらえるものであるが，本稿では，特に幼児のテレビ視聴の変化と，その背景となる幼児の属性やテレビ以外の生活時間の変化を中心に論述する。調査の概要は，下記のとおりである。

【調査日】2013年3月3日（日），4日（月）
【調査対象】首都圏（東京50キロ圏）に住む0歳（4か月）～就学前の幼児（平成18年4月～平成24年10月生まれ）
【調査相手】住民基本台帳から層化2段無作為抽出した1,500人（10人×150地点）
【調査方法】配付回収法。NHKが5年ごとに実施している国民生活時間調査と同形式の調査票（行動名が印刷された時刻目盛り日記式，15分単位）に記入してもらう。なお，記入は調査相手となった幼児の保護者による。
【有効調査相手数（率）】985人（65.7%）

調査した行動項目は**表1**のとおりである。子どもの行動のほか，保護者のテレビ視聴と子どものテレビ視聴の関係を探るために，保護者のテレビ・ビデオ視聴についても調査している。2003年調査から行動項目をほとんど変更していないが，幼児のメディア利用環境の変化に伴い，「インターネット（インターネットでウェブサイトや動画を見た）」という行動を追加した[5)]。なお，本文中で使用した主な指標の定義は，次のとおりである。

①行為者率：
1日の中で，ある行動を15分以上した人が全体の中で占める割合
②行為者平均時間量：
ある行動を15分以上した人に限った平均時間量
③全員平均時間量：
その行動をしなかった人も含めた全員の平均時間量[6) 7)]

1. 幼児のいる家庭
～サンプル構成の特徴と変化～

幼児の生活時間データの分析に入る前に，幼児自身および保護者の属性の特徴を述べていく。

まず，調査票への記入を依頼した保護者[8)]の年齢だが，「35～39歳」（36%）が最も多く，次いで「30～34歳」（28%），「40～44歳」（20%）となっている（**図2**）。10年前（2003年）は「30～34歳」（39%）が最も多かったが，この10年で保護者が高齢化し，35歳以上の保護者が半数以上を占めるようになっている。

表１　行動分類

（1）幼児の行動

＜行動の大分類の定義＞

「必需行動」・・・個体を維持向上させるために行う必要不可欠性の高い行動

「拘束行動」・・・家庭や社会を維持向上させるために行う義務性・拘束性の高い行動

「自由行動」・・・人間性を維持向上させるために行う自由裁量性の高い行動

	行動名	具体例
	在宅	自宅や庭にいた時間
必需行動	睡眠	夜の睡眠，ひるね，うたたね（30分以上）
	食事	朝・昼・夕食，間食，授乳，おやつ，外食
	身のまわりの用事	トイレ，おむつ替え，シャワー，散髪など
	療養・静養	病院・医者へ行く，診療や治療を受ける，入院中，病気で寝ている，予防接種・健康診断を受ける
拘束行動	幼稚園・保育園	（自宅と園の往復，園で食べる食事，昼寝などを含む）
	外出	日常的な用事で親が連れて行った外出
自由行動	テレビ 子のみテレビ	（実際に子どもが「見たり聞いたりした」と思う時間） そのうち，子どもだけでテレビを見た時間
	録画番組・ビデオ 子のみビデオ	録画したテレビ番組，ビデオ，DVDを見る そのうち，子どもだけでビデオを見た時間
	テレビ・携帯ゲーム 子のみゲーム	テレビゲーム，パソコンゲーム，携帯ゲーム機をする そのうち，子どもだけでゲームをした時間
	インターネット 絵本・マンガ ラジオ，ＣＤ	インターネットでウェブサイトや動画を見る，ゲームをする 絵本やマンガを見た，読んだ（大人が読んであげたことも含む） ラジオやデジタルオーディオプレーヤー，CD・テープを聞いた
	屋外遊び 屋内遊び 場所不明遊び けいこごと 行楽	公園，庭など屋外での遊び，三輪車・自転車遊び，散歩 自宅・友人宅・親戚宅など屋内での遊び，お手伝い，おかたづけ 遊んでいたが，屋内か屋外かわからない スポーツや音楽教室などのけいこごと，塾に行った，幼児向けの学習教材をした，家でおけいこの練習をした 観光地・遊園地・動物園などに行った，祭りの見物，ドライブ， ハイキング，旅行，催しもの・イベントに行った，映画・劇場に行った，など
	休息	30分未満の睡眠，ぼーっとしている，ぐずっている，など
その他不明	行動不明	子どもにたずねても，どうしても不明の時間
	その他	上記の行動にあてはまらないもの

（2）保護者のテレビ・ビデオ視聴

	母テレビ 母子テレビ	そのうち，調査相手の子どもと一緒にテレビを見た時間
	母録画番組・ビデオ 母子ビデオ	そのうち，調査相手の子どもと一緒にビデオを見た時間

図２　保護者の年齢（2003年－2013年比較）

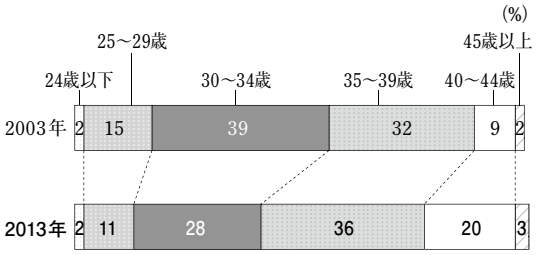
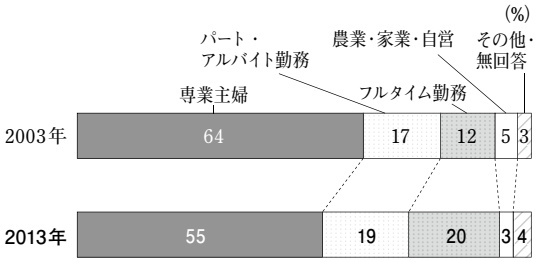


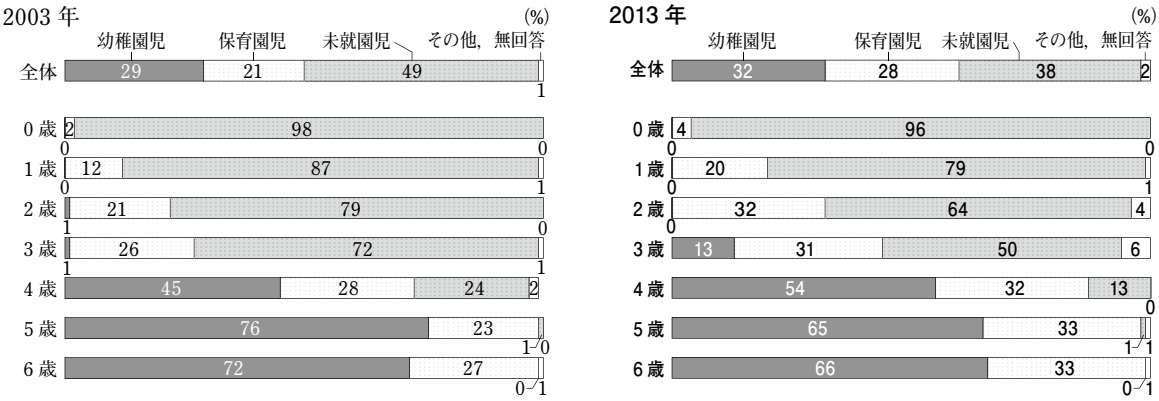
図３　母親の就労状況（全体:2003年－2013年比較）



次に，付帯質問で尋ねた幼児の母親の就労状況をみると，半数強が「専業主婦」で，「フルタイム勤務」と「パート・アルバイト勤務」がそれぞれ2割程度である**（図3）**。しかし10年前と比べると，「専業主婦」が減少し（64%→55%），「フルタイム勤務」が増加した（12%→20%）。幼児の年齢別にみても，「フルタイム勤務」の母親は年齢を問わず増加しており，どの年齢でも2割前後を占めている。

こうした働く母親の増加が，幼児の就園別の構成に変化をもたらしている**（図4）**。全体でみると，10年前と比べて「保育園児」が増加し（21%→28%），「未就園児」が減少した（49%→38%）。年齢別に変化をみると，2歳～4歳で「未就園児」が減少したほか，5歳では「幼

図4　「幼稚園児」「保育園児」「未就園児」の構成（年齢別：2003年－2013年比較）



稚園児」が減り，「保育園児」が増加している。特に1～3歳の低年齢児で，幼稚園や保育園に就園している幼児が増加した点が，幼児の生活時間の全体的な構造に，後述するような影響を与えている。

2. 幼児の1日の時間の使い方
～拘束時間が増加し，自由時間が減少～

ここからは，生活時間データで幼児の1日の時間の使い方を分析していく。まずは，24時間の時間配分をみてみよう。幼児生活時間調査で調査した行動を，睡眠や食事といった「必需行動」，幼稚園・保育園に行くといった「拘束行動」，メディア利用や遊びなどの「自由行動」，「その他・不明」の4つに大きく分類し，月曜日のそれぞれの時間量を集計し，2003年の結果とあわせて示した（**表2**：各分類の定義と具体的な行動は表1を参照）。今回の結果を幼児全体の平均でみると，必需時間は13時間47分，拘束時間は5時間7分，自由時間は4時間21分，その他・不明時間46分であった。年齢別の傾向をみると，最も時間を費やしている必需時間は，その多くを睡眠時間が占めて

表2　1日の時間配分（年齢別・就園別・月曜・全員平均時間：2003年－2013年比較）

	必需行動		拘束行動		自由行動		その他，不明	
	時間：分		時間：分		時間：分		時間：分	
	'03年	**'13年**	'03年	**'13年**	'03年	**'13年**	'03年	**'13年**
幼児全体	13:50	**13:47**	4:10	**5:07**	5:27	**4:21**	0:32	**0:46**
0歳	16:03	**15:55**	1:13	**1:11**	6:05	**5:37**	0:40	**1:16**
1歳	14:57	**15:01**	1:58	**2:54**	6:24	**5:10**	0:40	**0:54**
2歳	14:15	**14:07**	2:44	**4:03**	6:18	**4:59**	0:42	**0:50**
3歳	13:55	**13:42**	3:19	**4:38**	6:08	**4:56**	0:38	**0:44**
4歳	13:05	**13:21**	5:33	**6:17**	4:56	**3:48**	0:27	**0:35**
5歳	12:54	**13:00**	6:27	**6:55**	4:16	**3:29**	0:22	**0:36**
6歳	12:34	**12:41**	6:47	**7:14**	4:17	**3:22**	0:21	**0:43**
幼稚園児	13:06	**13:28**	5:56	**5:58**	4:34	**3:58**	0:24	**0:35**
保育園児	11:56	**12:00**	8:41	**9:15**	2:58	**2:08**	0:25	**0:37**
未就園児	15:05	**15:24**	1:09	**1:15**	7:05	**6:19**	0:41	**1:02**

注）・0歳のサンプルは少なく，誤差が大きいので参考値（以下同様）
・生活時間調査では，2つ以上同時に行動をしている場合，ながら行動としてすべての行動に線をひいてもらっているため，1日のすべての行動の時間量を足し上げると24時間を超える。このため，この3分類を計算するには，必需＞拘束＞自由の順に優先順位をつけ，重複がないように計算し，合計が24時間になるようにしている。

おり，年齢が低いほど長くなる。拘束時間は，年齢が高くなり，通園する幼児が増えるにつれて長くなる一方，自由時間は，拘束時間が短い低年齢の幼児ほどやや長い傾向がある。就園別にみると，在園時間が長い保育園児の拘束時間が圧倒的に長く，逆に自由時間は2時間台と，大変短い。

2003年調査の結果と比べると，幼児全体では拘束時間が1時間近く増加し，自由時間が1時間以上減少した。年齢別にみると，拘束時

表３　基本的な生活行動の全員平均時間
（幼児全体：2003 年－2013 年比較）

		月曜		日曜	
		時間：分		時間：分	
		'03 年	**'13 年**	'03 年	**'13 年**
（必需）	睡眠	10:44	**10:33**	11:03	**10:52**
	食事	1:47	**1:45**	2:03	**2:13**
	身のまわりの用事	1:12	**1:17**	1:09	**1:14**
（拘束）	幼稚園・保育園	3:29	**4:30**	0:05	**0:03**
	外出	0:41	**0:37**	1:18	**1:22**
（自由）	メディア接触（専念）	1:50	**1:30**	1:58	**1:55**
	遊び・けいこごと・休息など	3:37	**2:51**	5:31	**5:07**
	起床在宅	7:37	**6:48**	8:36	**8:31**

注）メディア利用については，専念接触分のみを「自由行動」とみなして集計した。
2013 年の「メディア接触」にはインターネットも含むが，2003 年のデータはインターネットを含まない値である。
「遊び・けいこごと・休息など」は自由時間から「マスメディア接触（専念）」を引き算して求め，「マスメディア接触（専念）」と合わせて自由時間全体となるようにした。

間は1～3歳で増加し，自由時間は0歳を除くすべての年齢で減少している。低年齢児では，就園している幼児が増加したことから拘束時間が増加し，結果的に自由時間が減少しているのである。

ちなみに，幼児全体の基本的な生活行動の全員平均時間の変化もみておきたい**(表3)**。「必需行動」の中では，睡眠時間が月曜・日曜とも減少しているのに対し，入浴や洗顔，おむつ替えといった身のまわりの用事の時間量は月曜・日曜とも増加した。食事時間は日曜に増加している。「拘束行動」の中では，月曜の幼稚園・保育園の全員平均時間が増加，特に保育園児の在園時間が増加し，9時間1分に達している。さらに，幼稚園・保育園の時間量が増加していることから，月曜の起床在宅時間が減少している。「自由行動」では，メディア接触（専念）と遊び・けいこごと・休息などの時間量が，ともに減少している。

3. 減少したテレビの行為者率・時間量

ここまで，幼児の属性の変化，および生活時間の大ぐくりの時間配分の変化をまとめた。前述を踏まえたうえで，テレビ視聴をはじめとしたメディア利用について詳細にデータを紹介し，10年前からの変化と，変化の背景となった他の行動との関係性について考察していきたい。

まず，テレビ視聴の実態をみてみる。なお，この調査で「テレビを見る」という行動は，保護者が「実際に子どもがテレビを見たり聞いたりした」と判断したものを記録してもらっており，「テレビがついていただけ」の状態は含んでいない。後述する録画番組・ビデオ視聴についても同様である。

テレビの行為者率と時間量を2003年調査の結果とあわせて**表4**に示した。今回の幼児全体の1日の行為者率は月曜・日曜とも77%，全員平均時間は月曜1時間39分，日曜1時間49分であった。年齢別にみると，0歳児の行為者率は月曜53%，日曜43%と少ないが，3～5歳では月曜・日曜とも80%以上と高い。就園別にみると，幼稚園児の行為者率が80%以上

表４　テレビの行為者率と時間量（男女・年齢・就園別：2003 年－2013 年比較）

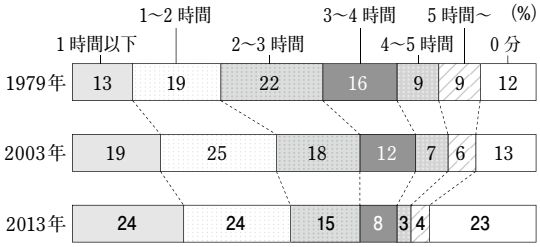
	月曜						日曜					
	行為者率		行為者平均時間		全員平均時間		行為者率		行為者平均時間		全員平均時間	
	%		時間：分		時間：分		%		時間：分		時間：分	
	'03 年	**'13 年**	'03 年	**'13 年**	'03 年	**'13 年**	'03 年	**'13 年**	'03 年	**'13 年**	'03 年	**'13 年**
幼児全体	87	**77**	2:31	**2:09**	2:12	**1:39**	84	**77**	2:27	**2:22**	2:03	**1:49**
男	87	**76**	2:30	**2:08**	2:11	**1:37**	83	**76**	2:29	**2:25**	2:03	**1:50**
女	88	**78**	2:33	**2:10**	2:14	**1:41**	84	**79**	2:25	**2:18**	2:02	**1:49**
0 歳	68	**53**	2:21	**2:15**	1:36	**1:12**	55	**43**	2:12	**2:20**	1:12	**1:01**
1 歳	89	**74**	2:33	**2:23**	2:17	**1:45**	76	**66**	2:04	**2:29**	1:33	**1:39**
2 歳	86	**73**	2:27	**2:19**	2:07	**1:41**	81	**70**	2:06	**2:14**	1:42	**1:34**
3 歳	89	**80**	2:39	**2:14**	2:21	**1:48**	92	**82**	2:29	**2:09**	2:17	**1:47**
4 歳	89	**85**	2:44	**2:08**	2:25	**1:49**	89	**88**	2:37	**2:26**	2:20	**2:08**
5 歳	94	**81**	2:26	**1:58**	2:17	**1:36**	92	**84**	2:37	**2:20**	2:24	**1:57**
6 歳	89	**77**	2:23	**1:57**	2:07	**1:30**	88	**88**	2:49	**2:31**	2:30	**2:13**
幼稚園児	92	**85**	2:27	**2:03**	2:15	**1:44**	91	**86**	2:36	**2:19**	2:21	**1:59**
保育園児	85	**70**	2:04	**1:41**	1:45	**1:10**	88	**79**	2:38	**2:27**	2:20	**1:56**
未就園児	86	**75**	2:47	**2:35**	2:23	**1:56**	77	**69**	2:15	**2:19**	1:44	**1:36**

であるのに対し，保育園児・未就園児はやや少ない。しかし，保育園児は日曜になると，行為者率・全員平均時間とも月曜より増加し，全員平均時間は幼稚園児とほぼ同程度になるが，未就園児は行為者率・全員平均時間とも月曜よりやや減少する。

10年前（2003年）からの変化をみると，幼児全体では，月曜・日曜とも行為者率・全員平均時間が減少した。月曜は行為者率が10%，全員平均時間が30分以上の減少となっており，今回の結果の中でも最も変化量の大きい行動となっている。2.でみたとおり，幼児全体で拘束時間が大きく増加した影響を受けているといえる。年齢別にみると，月曜は0歳児を除くすべての年齢で行為者率・全員平均時間がほぼ減少，日曜も3歳や5歳で行為者率・全員平均時間が減少している。

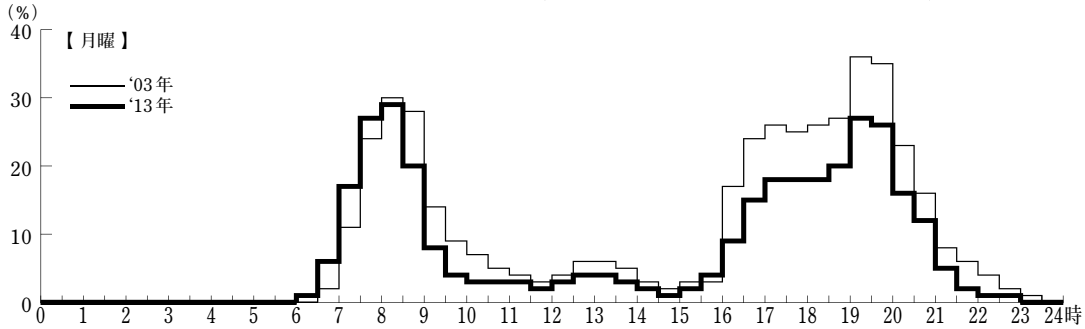
テレビ視聴時間の減少の様相を時間量分布の変化からも確認したい。1979年「幼児の生活とテレビ」調査の結果も加え[9]，長期的な比較を行った（**図5**）。1979年には「2～3時間」以上視聴する長時間視聴の幼児が半数以上を

図5　テレビ視聴時間量の分布
（幼児全体・月曜：1979年－2013年比較）



注）「1時間以下」は「15分以上，1時間以下」の視聴を，「1～2時間」は「1時間15分以上，2時間以下」の視聴を含む。「2～3時間」以降も同様。

図6　テレビの30分ごとの平均行為者率（2曜日・全体：2003年－2013年比較）



| | | |

占めていたが，2003年，2013年と減少し，現在はおよそ3割と少数派になった。一方，1979年，2003年と1割強であった「0分」（1日まったくテレビを見なかった）の幼児が2013年は23%まで増加したほか，「1時間以下」という幼児も回を追って増加している。

次に，1日の中でいつテレビを見ているのか，時刻別の行為者率（30分平均）をみていきたい。まず，幼児全体について10年前からの変化をみていく（**図6**）。幼児のテレビ視聴は，朝と夕方から夜間にかけて1日に2つの視聴の山がみられる。月曜は，朝は午前7時30分から9時にかけて20%以上がテレビを見ており，夕方から夜間は午後4時台から視聴が増え始め，6時30分から8時にかけて20%以上が視聴している。日曜は午前8時台の行為者率が30%前後に達し，1日で最もよく見られる時間帯となっている。また夕方から夜間は，午後6時から8時30分にかけて20%以上がテレビを見ている。

10年前と比べると，月曜は午前6時～7時30分，日曜は8時～8時30分と，朝の一部の時間帯で増加している。一方，月曜は8時30分～11時にかけては減少しており，朝の視聴がやや早い時間帯にシフトしているといえる。夕方から夜間にかけては，月曜は午後4時～11時，日曜は5時～7時30分や9時台など，幅広い時間帯で減少している。幼児のテレビ視聴時間の減少は，主に夕方から夜間にかけてテレビが見られなくなっていることが大きい。こうしたテレビが見られている時間帯の変化は，どのような生活行動の変化に起因しているものか，次に考察していく。

4. テレビ視聴時間減少の背景となる生活時間の変化
～早寝・早起き化と在園時間の長時間化～

(1) 進む朝の“早起き化”

ここから幼児の生活時間の1日の流れをデータで追っていくが，今回のテレビ視聴時間の減少は幼稚園・保育園など拘束時間の増加が大きく関係することから，月曜についてみていく。なお，月曜の幼児の生活時間は，就園状況によって異なるため，幼稚園児・保育園児・未就園児ごとに結果をみる。

朝の幼児のテレビ視聴は，10年前よりやや早い時間帯にシフトしているが，幼児の月曜の朝の時間の使い方に変化はあるのだろうか。**表5**は月曜朝の睡眠の行為者率の時刻別（15分ごと）推移をみたもので，行為者率の減少具合で幼児が何時ごろ起きてくるかがわかる。寝ている幼児の率が50%未満となった時刻，つまり半数以上の幼児が起床した時刻を「標準起床時刻」とすると，幼稚園児と保育園児は午前7時に対し，未就園児は7時30分と30分遅い。しかし10年前からの行為者率の変化

表5　睡眠の時刻別推移（就園別・月曜：2003年－2013年比較）

（%）

	＜幼稚園児＞		＜保育園児＞		＜未就園児＞		＜小学生＞＊		＜母親＞＊	
	2003	**2013**	2003	**2013**	2003	**2013**	2000	2010	2000	2010
5:30-5:45	99	**100**	99	**97**	98	**95**	98	97	86	84
5:45-6:00	99	**99**	99	**96**	97	**96**	98	97	82	81
6:00-6:15	99	**96**	97	**90**	94	**89**	90	86	68	58
6:15-6:30	98	**92**	95	**88**	95	**89**	83	79	59	54
6:30-6:45	90	**80**	82	**69**	92	**84**	71	57	35	31
6:45-7:00	85	**74**	74	**59**	90	**81**	57	44	30	25
7:00-7:15	65	**46**	43	**31**	81	**66**	22	12	14	12
7:15-7:30	55	**41**	36	**25**	78	**62**	8	7	13	10
7:30-7:45	28	**20**	15	**12**	63	**42**	1	2	8	6
7:45-8:00	25	**15**	12	**9**	57	**39**	0	2	7	6
8:00-8:15	8	**7**	6	**3**	41	**24**	0	1	5	4
8:15-8:30	4	**4**	3	**3**	38	**23**	0	1	5	4
8:30-8:45	1	**2**	2	**1**	29	**13**	0	1	5	2
8:45-9:00	1	**2**	2	**1**	26	**14**	0	1	5	2

＊＜参考値＞国民生活時間調査の結果より（10歳以上）（以下同様）
□は，寝ている人の率が50%未満となった時刻

をみると，幼稚園児は午前6時～8時，保育園児は6時～7時30分，未就園児は6時～9時で，いずれも寝ている子が減っており，全体的に“早起き化”が進行している。その結果，「標準起床時刻」も，幼稚園児と未就園児では10年前から30分早くなっている。

幼児はなぜ早起きになっているのか。国民生活時間調査の長期推移をみると，2000年から2010年にかけて，小・中学生や男性40・50代など幅広い年層で早起きする人が増加傾向にあった[10)]。幼児の母親（「小学校入学前の子どもがいる女性」）層をみても，2000年から2010年にかけて午前6時台の睡眠の行為者率が減少傾向にある（表5）。こうした親の生活の変化が，幼児の生活にも影響を及ぼしていると考えられる。

また，幼稚園児，保育園児の登園時間について，幼稚園・保育園の行為者率を時刻別にみると（**表6**），保育園児は午前7時台以降，幼稚園児も8時30分～45分の行為者率が10年前から増加しており，朝早い時間から登園している幼児が増えている。

つまり，幼児の朝の生活全般が早い時間帯にシフトしているといえ，テレビ視聴の時間帯にも影響を及ぼしていると考えられる。起床している幼児が増えた午前6時台には，Eテレが2011年から幼児向け番組を放送するようになり，幼児のテレビ視聴の増加につながっている。一方，午前8時30分以降は，幼稚園児や保育園児では家を出てしまっている幼児が増えた。また，園には通っていない未就園児においても，9時を境に，テレビを見ていた幼児がテレビを見るのをやめて屋内遊びに行動を移しており（8時30分～9時平均行為者率：テレビ29％，屋内遊び17％→9時～9時30分同：14％，29％），そのタイミングが10年前より30分早まっている。こうしたことから，幼児全体で8時30分以降テレビを見る幼児が減少していると考えられる。

表6　幼稚園・保育園の時刻別推移
（就園別・月曜：2003年－2013年比較）

（％）

	＜幼稚園児＞		＜保育園児＞	
	2003	**2013**	2003	**2013**
7:00-7:15	0	**0**	2	**5**
7:15-7:30	0	**1**	3	**10**
7:30-7:45	1	**2**	11	**22**
7:45-8:00	3	**4**	19	**28**
8:00-8:15	13	**13**	35	**46**
8:15-8:30	18	**19**	43	**53**
8:30-8:45	37	**45**	62	**73**
8:45-9:00	54	**58**	71	**81**

▭は，幼稚園・保育園の率が50％以上となった時刻

（2）帰宅時刻が遅くなり，進む“早寝化”

次に，テレビ視聴が減少している夕方から夜間にかけて，幼児の生活時間をみていきたい。

月曜では通園している幼児は日中の時間を園で過ごしているが，その時間量は幼稚園児と保育園児で大きく違う。幼稚園・保育園にいる率

表7　幼稚園・保育園，起床在宅の時刻別推移
（就園別・月曜：2003年－2013年比較）

（％）

	＜幼稚園・保育園＞				＜起床在宅＞					
	＜幼稚園児＞		＜保育園児＞		＜幼稚園児＞		＜保育園児＞		＜未就園児＞	
	2003	**2013**	2003	**2013**	2003	**2013**	2003	**2013**	2003	**2013**
14:00－14:15	75	**72**	92	**94**	9	**11**	2	**3**	44	**40**
14:15－14:30	65	**64**	92	**94**	17	**16**	2	**3**	43	**40**
14:30－14:45	41	**47**	92	**94**	36	**26**	1	**2**	44	**38**
14:45－15:00	37	**43**	91	**94**	38	**29**	2	**2**	44	**38**
15:00－15:15	26	**28**	91	**92**	44	**36**	1	**3**	46	**41**
15:15－15:30	20	**25**	91	**92**	46	**38**	2	**3**	47	**42**
15:30－15:45	12	**16**	90	**92**	51	**44**	2	**3**	49	**46**
15:45－16:00	10	**14**	90	**92**	53	**46**	2	**3**	50	**47**
16:00－16:15	7	**9**	84	**87**	54	**49**	6	**6**	59	**50**
16:15－16:30	6	**9**	83	**86**	54	**50**	7	**6**	60	**51**
16:30－16:45	5	**6**	70	**79**	61	**54**	14	**10**	65	**57**
16:45－17:00	5	**6**	65	**78**	62	**56**	18	**12**	66	**58**
17:00－17:15	3	**4**	53	**63**	69	**64**	30	**23**	69	**68**
17:15－17:30	3	**4**	51	**62**	71	**66**	34	**24**	70	**70**
17:30－17:45	2	**3**	41	**52**	77	**71**	44	**32**	72	**74**
17:45－18:00	1	**3**	38	**47**	79	**73**	46	**35**	72	**75**

▭は，幼稚園・保育園の率が50％未満となった時刻

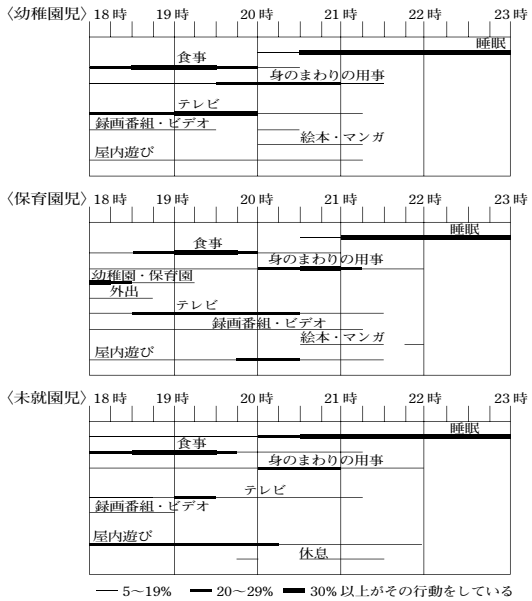
が50％未満となる「標準退園時刻」は，幼稚園児が午後2時30分に対し，保育園児は午後5時45分である（**表7**）。したがって，在園時間（幼稚園・保育園の行為者平均時間）は，幼稚園児6時間7分に対し，保育園児は9時間24分と3時間以上の開きがある。

退園した幼稚園児や未就園児は，午後から夕方にかけて，おやつを食べたり，遊んだり，おけいこごとをしたり，テレビやビデオを見たりして過ごしており（未就園児では昼寝をする子も多い），その過ごし方自体は10年前と大きな変化はない。ただ今回，調査対象となった日（2013年3月4日）に東京地方が好天に恵まれたため[11]，午後2時から6時にかけて屋外遊びや外出をする幼稚園児や未就園児が増加しており，起床在宅率が減少した。また，帰宅してまもない早い時間帯から入浴などする子が増えているのか，午後5時台から6時台には身のまわりの用事の行為者率も増加している。

以上のように，保育園児は帰宅時間が遅くなっており，幼稚園児や未就園児も在宅率が減少したことから，夕方にテレビを見る幼児が減少したと考察できる。特に保育園児の在園の長時間化は，女性の就業率や仕事時間の増加に伴う保育サービスの拡張という持続的な変化によるものであり，夕方にテレビを見られる幼児は，今後もあまり増加が見込めない状況であろう。

続いて夜間の生活をみていこう（**図7**）。幼稚園児や未就園児は午後6時30分から7時30分に夕食を食べ，午後8時台前半に入浴など身のまわりの用事を行う子が多い。また，メディア利用の面では，午後7時台にテレビがピークであるほか，幼稚園児は午後8時台には絵本・マンガを読む子が一定数みられる。

図7　夜の生活（就園別・月曜）



就寝前に親に絵本を読んでもらっているのかもしれない。帰宅時刻が遅い保育園児の場合は，各行動のピークが30分程度遅く，またピークの時間帯の行為者率が高く，集中している傾向がある。

就寝する時間についてみると，睡眠の行為者率が50％以上となる「標準就寝時刻」は幼稚園児，未就園児は午後9時，保育園児は9時30分となっている。睡眠の時刻別行為者率を10年前と比べると，幼稚園児が午後8時～10時，保育園児が9時台，未就園児が8時～11時30分でそれぞれ増加しており，全体的に早寝の傾向がみられる（**表8**）。この午後8時以降の睡眠の行為者率の増加が，夜間のテレビ視聴を早めに切り上げることにつながっていると考えられる。特に保育園児は，退園して帰宅する時刻が遅くなっているうえ，“早寝化”が進んでいるため，夜間に家で活動する時間が短くなっており，テレビや遊びに費やす時間が圧縮される傾向にあるといえる。

表 8　睡眠の時刻別推移
（就園別・月曜：2003 年－2013 年比較）

（%）

	<幼稚園児>		<保育園児>		<未就園児>		<小学生>＊		<母親>＊	
	2003	**2013**	2003	**2013**	2003	**2013**	2000	2010	2000	2010
19:30－19:45	4	**3**	0	**1**	8	**9**	1	1	0	0
19:45－20:00	4	**3**	0	**1**	8	**9**	1	1	0	0
20:00－20:15	8	**15**	3	**3**	11	**20**	1	2	0	0
20:15－20:30	11	**18**	4	**4**	14	**23**	1	3	0	0
20:30－20:45	19	**33**	8	**12**	18	**30**	1	3	0	2
20:45－21:00	23	**38**	12	**13**	20	**34**	1	4	1	2
21:00－21:15	55	**65**	32	**40**	34	**53**	15	20	3	5
21:15－21:30	62	**69**	36	**46**	36	**57**	20	24	2	5
21:30－21:45	75	**83**	54	**63**	47	**72**	34	40	3	12
21:45－22:00	79	**87**	58	**69**	50	**73**	37	40	4	12
22:00－22:15	90	**92**	79	**83**	64	**83**	64	65	14	24
22:15－22:30	92	**92**	81	**87**	68	**84**	66	68	14	25
22:30－22:45	96	**93**	89	**94**	75	**88**	80	78	20	30
22:45－23:00	96	**93**	90	**95**	77	**89**	83	78	23	32
23:00－23:15	96	**94**	92	**96**	84	**91**	93	89	42	50
23:15－23:30	96	**94**	93	**96**	86	**91**	94	90	44	52

▭は，寝ている人の率が 50%以上となった時刻

表 9　録画番組・ビデオの行為者率と時間量
（男女・年齢・就園別：2003 年－2013 年比較）

	月曜				日曜			
	行為者率		全員平均時間		行為者率		全員平均時間	
	%		時間：分		%		時間：分	
	'03 年	**'13 年**	'03 年	**'13 年**	'03 年	**'13 年**	'03 年	**'13 年**
幼児全体	39	**39**	0:29	**0:31**	41	**46**	0:33	**0:40**
男	40	**43**	0:31	**0:36**	40	**49**	0:33	**0:44**
女	37	**34**	0:28	**0:26**	42	**43**	0:33	**0:36**
0 歳	18	**14**	0:12	**0:09**	13	**17**	0:09	**0:09**
1 歳	40	**41**	0:29	**0:34**	44	**43**	0:35	**0:34**
2 歳	54	**50**	0:45	**0:40**	55	**55**	0:45	**0:56**
3 歳	49	**47**	0:42	**0:39**	45	**46**	0:35	**0:41**
4 歳	40	**39**	0:29	**0:34**	43	**51**	0:35	**0:44**
5 歳	32	**39**	0:21	**0:29**	41	**50**	0:32	**0:46**
6 歳	31	**31**	0:19	**0:25**	34	**44**	0:28	**0:36**
幼稚園児	34	**38**	0:23	**0:30**	39	**47**	0:30	**0:39**
保育園児	28	**35**	0:18	**0:24**	40	**50**	0:35	**0:45**
未就園児	46	**42**	0:38	**0:37**	43	**41**	0:33	**0:38**
小学生＊	6	**17**	0:03	**0:16**	12	**21**	0:09	**0:21**

＊<参考値> 2000 年・2010 年国民生活時間調査の結果より（10 歳以上）
月曜の値は「平日」の値である

5. テレビ以外のメディア利用の変化

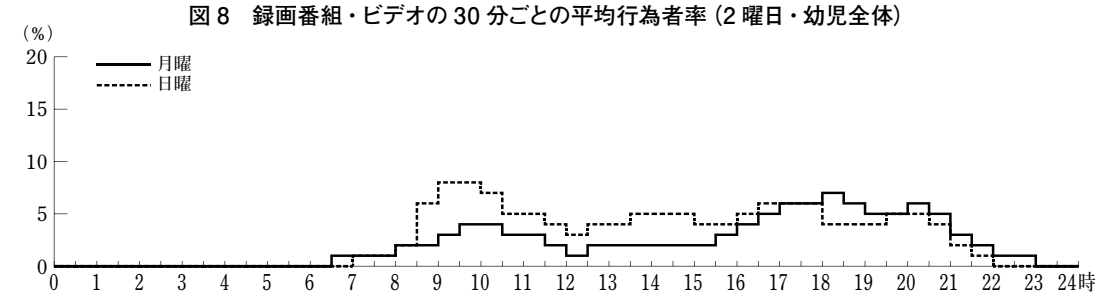
(1) 夜間に増える録画番組・ビデオ視聴

テレビ視聴時間減少の背景を探るためにもうひとつ，ビデオやテレビ・携帯ゲームなどテレビ以外のメディア利用の変化とテレビ視聴の変化との関係をみていきたい。

まず，録画番組・ビデオ視聴をみていく（**表9**）。幼児全体の1日の行為者率は月曜39%，日曜46%，行為者平均時間は月曜1時間20分，日曜1時間28分，全員平均時間は月曜31分，日曜40分で，日曜の視聴が多い。年齢別にみると，月曜は2～3歳で行為者が半数程度と高めであるが，日曜になると4～5歳の行為者も半数程度まで増加する。10年前と比べると，月曜は変わらないが，日曜は幼児全体の行為者率と時間量が増加した。低年齢児より高年齢児で行為者率が増加傾向にあり，就園別にみると，幼稚園児や保育園児は行為者率が増加した。月曜に増加がみられなかったのは，やはり拘束時間の増加によるものと考えられる。

次に時刻別の行為者率（30分平均）をみると，月曜は午後4時30分から9時にかけて行

図 8　録画番組・ビデオの 30 分ごとの平均行為者率（2 曜日・幼児全体）



月曜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	2	3	4	4	3	3	2	1	2	2	2	2	2	2	3	4	5	6	6	7	6	5	5	6	5	3	2	1	1	0	0
日曜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	6	8	8	7	5	5	4	3	4	4	5	5	5	4	4	5	6	6	6	4	4	4	5	5	4	2	1	0	0	0	0	0

為者率5%以上と，夕方から夜間によく見られているのに対し，日曜は昼時を除き，午前中から夜間までほぼ5%以上と終日よく見られており，特に午前9時台は8%とやや高い（**図8**）。日曜のテレビは午前8時台が最もよく見られており，9時にかけてテレビからビデオに移るのかもしれない。ビデオの時刻別行為者率を10年前と比べると，月曜は午後6時から9時にかけて，日曜は午後5時から6時30分，7時30分から8時にそれぞれ増加しており，夕方から夜間にかけてビデオを見る幼児が増加しているといえる。特に月曜は増加している時間帯の幅が広く，夜間のテレビ視聴の一部がビデオ視聴に取って替わった可能性がある。

（2）テレビ・携帯ゲームとインターネット

テレビ・携帯ゲームやインターネットの利用状況もみておきたい。**図9**は，付帯質問で尋ねた，主なデジタル機器を幼児が自分で使う割合を年齢別に示したものであるが，機器によって自分で使う割合が増える成長のタイミングが異なることがわかる。スマートフォンは，1歳を超えると使う幼児の割合が増え始め，2歳後半でおよそ2割が使っている。また，携帯ゲーム機は

図9　デジタル機器を幼児自身が使う割合

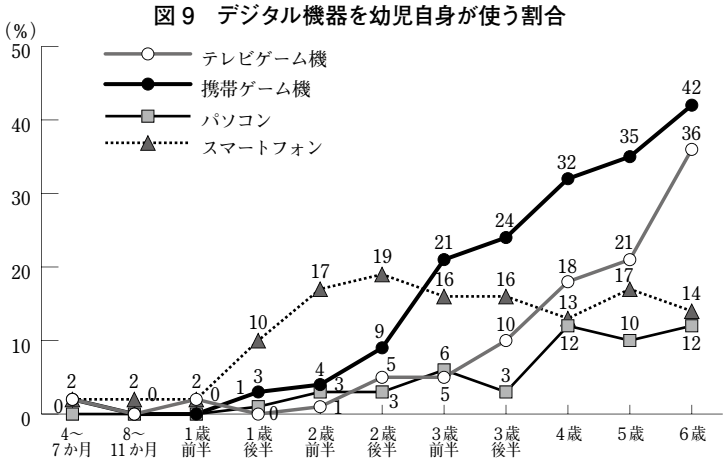
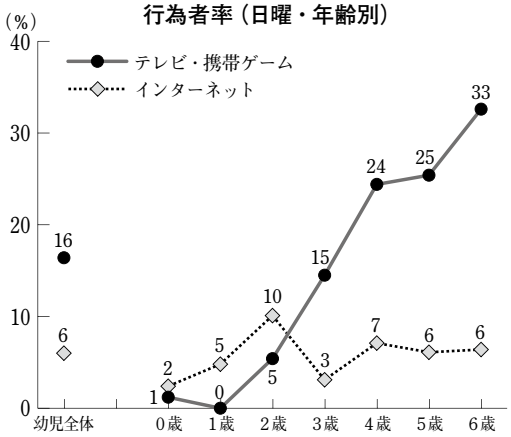


図10　テレビ・携帯ゲーム，インターネットの行為者率（日曜・年齢別）



3歳前半から，テレビゲーム機は3歳後半からそれぞれ使う幼児の割合が増え始め，6歳になると，どちらも4割前後が使用している。

こうした状況を踏まえて生活時間データをみると，テレビ・携帯ゲームの1日の行為者率は，幼児全体で月曜10%，日曜16%，全員平均時間は月曜6分，日曜12分であった。10年前と比べると，日曜の行為者率，時間量が増加した（2003年：13%，9分）。年齢別に行為者率をみると（**図10**），年齢が上がるほど高くなり，4～5歳で20%以上，6歳は33%に達する。

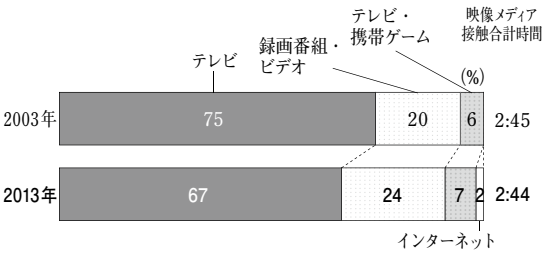
また今回の調査から追加したインターネットの行為者率は月曜4%，日曜6%，全員平均時間は月曜2分，日曜3分で，テレビ・携帯ゲームより低い値となった。年齢別には2歳が最も高いが（10%），年齢が上がるにつれ行為者率が増えるわけではない。録画番組・ビデオの行為者率も2歳が最も高く，年齢別の傾向が類似していることから，幼児はインターネットで主に動画を見ているのでは，と推測できる。スマートフォンを使う幼児の割合も1歳か

ら2歳にかけて増えており，スマートフォンは主にインターネット動画を見る用途で使っていることが想像される。

（3）進む映像メディアの分散

このように，テレビの行為者率・時間量は10年前から月曜・日曜とも減少しているのに対し，ビデオやテレビゲームは，日曜にはむしろ増加する動きがあった。最後に，テレビ，録画番組・ビデオ，テレビ・携帯ゲーム，インターネット（2013年のみ）を合わせて「映像メディア」とし，幼児がトータルでどの程度「映像メディア」に接しているか，各メディアの占める割合をみてみる。今回，自由時間が長い日曜のデータから各メディアの時間量を単純に合計し，その割合を求めた（**図11**）。「映像メディア」の合計時間量は2013年と2003年でほとんど変わらない。しかし，テレビの占める割合は2003年75%から2013年67%に減少し，録画番組・ビデオの割合は20%から24%に増加，テレビ・携帯ゲームも6%から7%にやや増えた。幼児のメディア利用も多様化しており，限られた映像メディアの利用時間の中で，テレビのシェアが減り，他のメディアへの分散が進んでいるといえる。

図11　「映像メディア」*の接触時間のメディア別構成比（幼児全体・日曜：2003年－2013年比較）

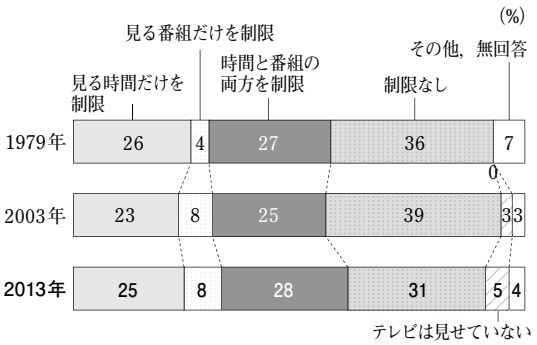


＊テレビ＋録画番組・ビデオ＋テレビ・携帯ゲーム＋インターネットの中で各メディアが占める割合（2003年調査では，「録画番組・ビデオ」は「ビデオ」，「テレビ・携帯ゲーム」は「テレビゲーム」，「インターネット」は調査していない）

6. 保護者のテレビ視聴との関係性
～保護者のテレビ視聴時間も減少～

最後に，幼児の生活行動とともに調査した保護者のテレビ視聴と幼児のテレビ視聴の関係にも，少しだけ触れておきたい。まず，付帯質問から，子どもにテレビを見せるうえで，何らかの視聴制限をしているかどうかを尋ねた結果を紹介する（**図12**）。「自由に見せている（制限なし）」という人が31%に対し，何らかの視聴制限をしている人が合わせて61%と，多数派である。1979年，2003年と時系列比較をしてみると，「自由に見せている」が2003年から減少，何らかの視聴制限をしている人が増加した（56%→61%）。幼児のテレビ視聴に対して，保護者によるコントロールが強まっている動きといえよう。

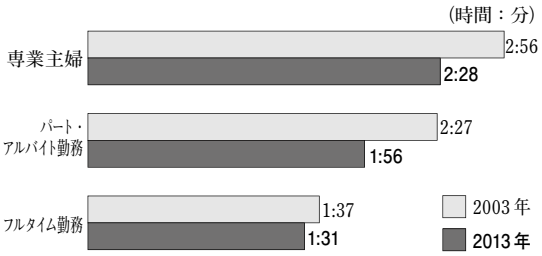
図12　テレビ視聴制限の有無



注）1979年調査では，「テレビは見せていない」という選択肢がなかった。

また，幼児の生活時間とともに調査した保護者のテレビの全員平均時間を10年前と比較すると，月曜，日曜ともに減少した（月曜：2003年2時間40分→2013年2時間9分，日曜：同2時間34分→2時間11分）。保護者を母親に限り，母親の就労別にテレビ視聴時間をみると（**図13**），専業主婦＞パート・アルバイト勤務＞フルタイム勤務の順で長いが，専業主婦とパート・

図 13　母親のテレビ視聴時間量
（就労別・月曜：2003 年－2013 年　全員平均時間）



アルバイト勤務は10年前より減少している。さらに1.でみたように視聴時間が短いフルタイム勤務の母親の割合が増加しており，母親全体の視聴時間の減少に拍車をかけている。

一方，保護者の録画番組・ビデオの全員平均時間は増加している（月曜：同15分→23分，日曜：同17分→29分）。保護者のメディア利用の変化は大きく，幼児のテレビ視聴に強く影響している可能性は高い。

まとめ

10年ぶりに実施した幼児生活時間調査であったが，幼児視聴率調査と同様に，テレビ視聴時間の減少という変化が確認された。今回，このテレビの変化を軸に，幼児の生活時間の10年間の変化を概観してきたが，朝起きてから夜寝るまでの幼児の1日の生活の流れは，10年前と大きくは変わってはいない。ただ，1つめには，幼児の母親の高齢化とフルタイム勤務の増加に伴い，保育園児が増加するといった幼児全体の構成の変化，2つめは，早寝早起き化や保育園在園の長時間化といった幼児の生活時間自体の変化，3つめは，限られた自由時間をビデオやテレビゲームに割く割合が増えるなどメディア利用の変化，といった動きが，いずれも幼児のテレビ視聴を抑制する方向で影響している可能性がうかがえた。1つめ，2つめの変化は主に月曜のテレビ視聴への影響が大きいと考えられるが，3つめのメディア利用の変化は，曜日を問わず，幼児の自由時間の過ごし方全般を変えていく可能性を持っている。

さらに，すべての生活を自律的に過ごしているわけではない幼児の場合，保護者（母親）のテレビに対する考え方やテレビ視聴の変化が幼児のテレビ視聴に及ぼす影響も見逃せない。保護者のテレビ視聴と幼児のテレビ視聴の関係については，付帯質問も含めてさらに分析を深めていきたい。　（なかの　さちこ）

注：

1）安楽裕里子「幼児のテレビ視聴と録画番組・DVD の利用状況～ 2013 年 6 月『幼児視聴率調査』から～」本誌 2013 年 10 月号
2）詳しくは，関根智江「幼児はテレビをどう見ているか～ 2012 年 6 月『幼児視聴率調査』から～」本誌 2012 年 10 月号など
3）NHK 放送世論調査所編『幼児の生活とテレビ』日本放送出版協会（1981 年）
4）中野佐知子「多様化する幼児のメディア利用　幼児生活時間調査 2003・報告」本誌 2003 年 8 月号
5）このほか，やはりメディア環境の変化に伴い，下記のとおり行動名を変更した。なお，時系列比較は行っている。
2003 年「ビデオ」→ 2013 年「録画番組・ビデオ」
2003 年「テレビゲーム」→ 2013 年「テレビ・携帯ゲーム」
6）全員平均時間はその行動を行った人の数と時間量をかけ合わせた数値を全員で割った平均値であり，行為者率の少ない行動ではしばしば生活実感とは合わない値となる。
7）幼児全体の全行動の 1 日の行為者率や全員平均時間量，15 分ごとの行為者率を放送文化研究所のホームページに掲載した。http://www.nhk.or.jp/bunken/yoron/lifetime/index.html
8）調査に回答した保護者の91%が「母親」であった。
9）1979 年「幼児の生活とテレビ」調査は，2003 年以降の調査と行動分類の設定などが大きく違うため，行為者率や時間量の数値を直接比較することはできないので，時間量分布の比較を試みた。
10）NHK 放送文化研究所編『日本人の生活時間・2010』NHK 出版（2011 年），第Ⅱ部 5 章
11）2003 年調査の調査対象日（2003 年 3 月 3 日）の東京地方の天気は，曇りのち雨であった。

「幼児生活時間調査」付帯意向質問
単純集計結果
（2003年調査の結果を併記）

1 調査目的　0歳から就学前までの乳・幼児のメディア利用を含めた生活行動を明らかにする基本データを得る。
2 調査日　2003年（平成15年）3月2日（日）・3日（月）
2013年（平成25年）3月3日（日）・4日（月）
3 調査方法　配付回収法によるプリコード方式
4 調査対象　首都圏（東京50キロ圏）に住む
0歳4か月～就学前の幼児
5 調査相手　住民基本台帳から層化無作為2段抽出
1,500人（10人×150地点）
6 調査有効数（率）　2003年　1,144人（76.3%）
2013年　985人（65.7%）

質問1，2　は基本属性に関する質問のため略

質問3＜兄弟構成＞
きょうだいがいますか。（○は1つ）

	2003年	2013年
1．兄／姉がいるだけ	44.1	40.9 %
2．兄／姉も弟／妹もいる	6.3	10.5
3．弟／妹がいるだけ	19.0	18.7
4．きょうだいはいない	30.5	29.8
5．無回答	0.2	0.1

質問4＜祖父母の同居＞
お子さんからみて，祖父母の方と同居していますか。（○は1つ）

1．している	19.8	14.7 %
2．していない	80.2	85.1
3．無回答	0.1	0.2

質問5＜幼稚園・保育園など＞
お子さんは，幼稚園，保育園などに行っていますか。（○は1つ）

1．幼稚園に行っている	29.4	32.2 %
2．保育園に行っている	21.0	28.3
3．どこにも行っていない	49.0	37.6
4．その他（具体的に）	0.6	1.8
5．無回答	0.1	0.1

質問6＜よくする遊び＞（2歳以上のみ）
現在お子さんがよくしている遊びに，3つまで○をつけてください。（○は3つまで）

ア．自転車・三輪車などを使った遊び	18.5	15.0 %
イ．公園で遊具を使った遊び	12.5	17.5
ウ．砂場遊び	9.4	6.3
エ．ボール遊び	8.0	9.6
オ．ままごと，ごっこ遊び	29.0	33.5
カ．お絵かき，折り紙，ぬり絵，粘土遊び	35.2	35.0
キ．ゲーム，トランプ，パズル	9.0	9.3
ク．積木，ブロック	13.4	13.3
ケ．ミニカー，プラモデル	13.1	13.3
コ．絵本を読む（聞く）	19.2	15.9
サ．マンガ・本を読む	1.7	1.9
シ．テレビを見る	19.4	19.8
ス．ビデオ・DVDを見る	24.7	23.9
セ．テレビゲームや携帯ゲームをする	8.2	10.8
ソ．インターネットをする	－	1.6
タ．その他（具体的に）	3.9	2.8
チ．無回答	0.3	0.5
ツ．非該当	24.0	21.5
	n=870	773

質問7＜お稽古ごと＞
お子さんは，何かおけいこごとや習い事をしていますか。（○はいくつでも）

ア．ピアノやエレクトーンなどの楽器教室	7.2	7.8 %
イ．水泳や体操教室，スポーツクラブ	18.1	20.9
ウ．バレエやリズム教室	3.8	6.1
エ．絵画や習字教室	2.9	1.4
オ．英語などの語学教室	6.2	5.5
カ．塾や幼児教室	7.0	6.4
キ．定期的に送られてくる学習教材	11.5	12.7
ク．その他（具体的に）	0.9	1.1
ケ．特に何もしていない	60.6	56.0
コ．無回答	1.5	2.0

質問8＜テレビはつけっぱなしか＞
お宅ではふだん，テレビをつけたままにしているほうですか。（○は1つ）

1．しているほう	51.2	51.5 %
2．していないほう	48.6	47.7
3．無回答	0.2	0.8

質問9＜テレビを見せ始めた時期＞
あなたが，お子さんにテレビを見せるようになったのは，お子さんが何歳ぐらいのときですか。（○は1つ）

1．～0歳6ヶ月までの間	27.9	22.0 %
2．0歳7ヶ月～1歳までの間	37.7	39.0
3．1歳1ヶ月～1歳6ヶ月までの間	18.5	19.2
4．1歳7ヶ月～2歳までの間	4.3	5.0
5．2歳1ヶ月以上	1.8	4.2
6．まだテレビを見せていない	1.7	3.7
7．忘れた，わからない	7.5	5.9
8．無回答	0.5	1.1

質問 10 ＜テレビの見方の発達＞（4 歳未満のみ）

赤ちゃんから 3 歳にかけての，テレビの見方の発達を，次のように分けてみました。お子さんの今の様子は，どれに一番近いでしょうか。（○は 1 つ）

1．まだ，テレビにはまったく関心を示さない	0.4	0.8 %
2．テレビの音にだけ関心をもちはじめている	1.4	0.8
3．テレビの画面にも関心をもちはじめている	12.8	9.9
4．テレビの内容も幾分，理解しはじめている	15.1	12.1
5．見たい番組がだいたい決まっている	22.2	23.9
6．わからない	0.3	0.6
7．テレビを見せていない	0.8	1.7
8．無回答	1.4	0.7
9．非該当	45.5	49.4
	n= 623	498

質問 11 ＜視聴反応動作＞（4 歳未満のみ）

お子さんは，テレビを見て，次の動作をすることがありますか。（○はいくつでも）

ア．まだ，テレビにはまったく関心を示さない	1.4	2.5 %
イ．拍手するのを見て，同じように拍手をする	31.8	26.9
ウ．体操などを見て，同じように手足を動かす	38.5	33.7
エ．歌にあわせて，同じように歌おうとする	33.8	28.6
オ．短いことばの，まねをする	29.2	23.8
カ．テレビは見るが，まねをすることはない	6.1	5.8
キ．無回答	1.3	1.1
ク．非該当	45.5	49.4
	n= 623	498

質問 12 ＜テレビに子守りさせるか＞

あなたは，テレビにお子さんの子守りをさせることがありますか。（○は 1 つ）

1．よくある	21.8	25.5 %
2．ときどきある	49.1	46.9
3．あまりない	21.1	16.2
4．まったくない	7.9	10.9
5．無回答	0.2	0.5

質問 13 ＜視聴制限＞

あなたは，お子さんの見るテレビ番組やテレビを見る時間について，制限をしていますか。（○は 1 つ）

1．見る時間だけを制限している	23.3	24.5 %
2．見てはいけない番組をきめている	7.5	8.3
3．時間と番組の両方を制限している	25.1	28.0
4．自由に見せている	38.8	30.5
5．その他（具体的に）	2.4	3.0
6．テレビを見せていない	2.5	5.2
7．無回答	0.4	0.5

質問 14 ＜録画再生時間：2013 年のみ＞

お子さんは，休日をのぞくふだんの日に，録画したテレビ番組を 1 日にどのくらい再生して見ていますか。（○は 1 つ）

1．ほとんど，まったく見ない	39.9 %
2．15 分未満	2.5
3．15 分以上 30 分未満	13.6
4．30 分以上 1 時間未満	24.2
5．1 時間以上 2 時間未満	13.1
6．2 時間以上	6.2
7．無回答	0.5

質問 15 ＜ビデオ視聴時間：2013 年のみ＞

お子さんは，休日をのぞくふだんの日に，市販のビデオや DVD を 1 日にどのくらい再生して見ていますか。（○は 1 つ）

1．ほとんど，まったく見ない	54.6 %
2．15 分未満	4.6
3．15 分以上 30 分未満	12.3
4．30 分以上 1 時間未満	16.0
5．1 時間以上 2 時間未満	9.9
6．2 時間以上	2.3
7．無回答	0.2

質問 16 ＜所有機器：2013 年のみ＞

お宅にあるものを，いくつでもお答えください。（○はいくつでも）

ア．HDD（ハードディスクレコーダー）	79.5 %
イ．テレビゲーム機	52.8
ウ．携帯ゲーム機（ニンテンドー DS，PSP など）	52.3
エ．パソコン	85.8
オ．ケーブルテレビ，CS 放送などが受信できるテレビ	30.9
カ．携帯電話・PHS	65.4
キ．スマートフォン	73.4
ク．タブレット端末（iPad など）	21.5
ケ．無回答	0.2

質問 17 ＜幼児利用機器：2013 年のみ＞

このうちお子さんが自分でお使いのものを，いくつでもお答えください。（○はいくつでも）

ア．HDD（ハードディスクレコーダー）	28.1 %
イ．テレビゲーム機	13.8
ウ．携帯ゲーム機（ニンテンドー DS，PSP など）	22.1
エ．パソコン	6.6
オ．ケーブルテレビ，CS 放送などが受信できるテレビ	7.5
カ．携帯電話・PHS	3.6

キ．スマートフォン …… 13.3
ク．タブレット端末（iPad など）……8.4
ケ．無回答 …… 47.0

質問 18 ＜保護者＞
この質問にお答えいただいているのは，お母さまですか。それとも他の保護者の方ですか。
1．お母さま ……95.8　91.3 %
2．お母さま以外の保護者の方 …… 3.9　8.3
3．無回答 …… 0.3　0.4

質問 19 ＜母親の就業＞
お子さんのお母さまは職業をおもちですか。（○は 1 つ）
1．専業主婦である ……63.6　55.1%
2．パートタイム・アルバイトで勤めている ……16.8　18.5
3．フルタイムで勤めている ……11.5　19.7
4．農業・家業・自営業などに従事している …… 4.8　2.6
5．その他（具体的に） …… 3.1　3.8
6．無回答 …… 0.3　0.3

質問 20 ＜保護者のインターネット利用：2013 年のみ＞
あなたは，ふだん，インターネットで次のようなことをしますか。あてはまるものをすべてお答えください。（○はいくつでも）
ア．動画を見る …… 39.4 %
イ．オンラインゲームをする ……8.4
ウ．インターネットラジオを聞く ……4.8
エ．インターネット上のコミュニティーや電子掲示板に参加する ……8.4
オ．SNS に参加する（ソーシャルネットワーキングサービス，LINE や Twitter，Facebook など）‥ 37.8
カ．ホームページやブログを書いたり写真をアップしたり，コメントやトラックバックをする ‥ 12.2
キ．家族や知人と Skype などを通じてやりとりする‥9.1
ク．どれもすることはない …… 33.0
ケ．無回答 ……1.3

質問 21 ＜保護者の年齢＞
あなたの年代は次のどれにあたりますか。（○は 1 つ）
1．19 歳以下 …… 0.4　0.0 %
2．20 ～ 24 歳 …… 1.9　2.3
3．25 ～ 29 歳 ……15.4　10.9
4．30 ～ 34 歳 ……39.2　27.5
5．35 ～ 39 歳 ……31.7　36.0
6．40 ～ 44 歳 …… 9.3　19.9
7．45 歳以上 …… 2.0　3.1
8．無回答 …… 0.1　0.2

サンプル構成

2003 年	幼児全体	男	女	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	幼稚園	保育園	未就園
実数（人）	1,144 人	563	581	102	172	176	173	180	182	159	336	240	560
構成比（%）	100%	49.2	50.8	8.9	15.0	15.4	15.1	15.7	15.9	13.9	29.4	21.0	49.0

	兄弟構成				母親年齢					母親就労状況				
	兄／姉のみ	兄／姉弟／妹あり	弟／妹のみ	兄弟なし	24 歳以下	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	35 ～ 40 歳	40 歳以上	専業主婦	パート・アルバイト勤務	フルタイム勤務	農業家業自営業	その他
実数（人）	504	72	217	349	26	175	440	352	103	728	192	131	55	35
構成比（%）	44.1	6.3	19.0	30.5	2.3	15.3	38.5	30.8	9.0	63.6	16.8	11.5	4.8	3.1

2013 年	幼児全体	男	女	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	幼稚園	保育園	未就園
実数（人）	985 人	504	481	84	128	151	135	158	184	145	317	279	370
構成比（%）	100%	51.2	48.8	8.5	13.0	15.3	13.7	16.0	18.7	14.7	32.2	28.3	37.6

	兄弟構成				母親年齢					母親就労状況				
	兄／姉のみ	兄／姉弟／妹あり	弟／妹のみ	兄弟なし	24 歳以下	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	35 ～ 40 歳	40 歳以上	専業主婦	パート・アルバイト勤務	フルタイム勤務	農業家業自営業	その他
実数（人）	403	103	184	294	22	100	253	335	188	543	182	194	26	37
構成比（%）	40.9	10.5	18.7	29.8	2.2	10.2	25.7	34.0	19.1	55.1	18.5	19.7	2.6	3.8